平成 30 年度（2018 年度）
京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程入学試験問題
語学（日本音楽研究専攻・英語）

下の文章は、西洋音楽の入門書（Otto Karplyi. 1965. *Intoroducing Music*. Harmondsworth, Middlesex, England: Penguin Books Ltd.）から引いた文章です。よく読んで問いに答えてください。

この問題は著作権法上の関係により，出典のみを記載しています。

問１、傍線部 [redacted] は、現在でも、世界の音楽文化において普通に認められる現象です。どういう現象であるか説明した上で、この現象があてはまる音楽文化の例を紹介してください。（日本語で解答してください。また、同じ内容を英語で解答してもかまいません。語数は自由です。）

問２、傍線部 [redacted] として、五線譜（staff notation）に使われる記号以外に、どのような symbolic system（あるいは記号）がありますか。アジアの音楽文化から実例をとりあげ、紹介してください。なお、pitch と rhythm の両方ではなく、どちらか一方を表わす symbolic system（あるいは記号）でもかまいません。（日本語で解答してください。また、同じ内容を英語で解答してもかまいません。語数は自由です。）

問３、傍線部 [redacted] が、音楽文化の中で発生していく理由は何ですか。自分の考えを英語で説明してください。（語数は自由です。）

平成三十年度　京都市立芸術大学大学院音楽研究科入学試験　専門語学　日本語（古典）

「おかげ参り」とは集団で伊勢神宮参詣をする江戸時代の社会現象で、大規模なものが約六十年の周期で発生しました。うち、文政十三年（一八三〇）閏三月から八月末ごろにかけての「おかげ参り」は、参詣者数四百三十万ないし五百万人という最大の規模でした。同年十月、「おかげ参り」終息にかわって、熱狂的に踊り囃し立てる「おかげ踊り」という集団行動が大和・河内・摂津などの地域で社会現象化し、翌年七月頃まで続きました。以下の囚回は、大坂のある町医者の見聞録『浮世の有さま』の一部で、文政十三年の「おかげ踊り」の様子を伝える記事です。次の設問に答えなさい。

① 「おかげ踊り」がおこった経緯をどのように説明していますか。記事囚を読んで答えなさい。

② 同じく記事囚を読んで答えなさい。内里の庄屋（南周助）は、おかげ踊りに熱狂する村人を制止するため、どのように対応しましたか。また、その結果はどうなりましたか。

③ 記事回のあらまし（おおよその内容）を述べなさい。

④ 文政十三年「おかげ踊り」騒動において、集団で囃したて躍ることが社会に及ぼした影響、あるいはその意義やメリットについて、あなたの考えを自由に述べなさい。

（前略）

A 大和・河内は当年殊の外豊年にして、別て紅花など近年にこれなき豊作なりしにぞ、「京都は吝嗇にして御蔭参りに施行も少なかりしかば、右の如く大地震あり。こは神の罰なるべし。大和・河内は参宮人の世話をよくなせしゆへ、これ全く神の恵み蒙りしなるべし。躍るべし」とて、誰云共なく大に浮れ立て、三十五十の人々一群れに成りて躍り廻りしに、国中一面になりて大に騒動し、昼共夜共分ちなく、老も若きも一様にて、二日も三日も処々泊りがけに躍り歩くやうになりぬ。躍りの手は願人坊主手を付て願人躍りの如く、三味線・太鼓・すりがね等にてはやし、傘をさし、住吉躍りのごとしと云。大和内里といへるは、八幡より二里斗南なるが、此処の庄屋南周助といへるは、予が知れる人也。其村よりも七百人斗村人一人も残れる者なく、二百五十匁にて金の幣を拵へ、これを先に押立、はやし立て躍り歩行、年貢等も少も頓着なく浮れ廻るにぞ、其幣を取上げしに、直に厚紙にてこれを拵へぬるゆへ、又これをもはやし道具をも或日の申の刻に取上げしに、直に酉の刻より先の如く囃し立て躍りぬ。其囃子道具は、京都へ人を走らせこれを求めしが、かへる間遅しとて伏見にてかり集めしと云。如レ此なるゆへ、庄屋・年寄これを制せんとて人を制しに遣すに、

其者も共に躍りてかへる事なく、地頭より役人出て厳しくこれを制すれども、更にこれを用ゆる事なし。

B 又大坂 靭 のほしか問屋、大和へ多くほしかを商ひ置て代物受取に行しに、或売先の家に主の弟死去す。掛取に此家に行けども、直に其事も云ひ出しがたく、先悔みを云ひて、「当国にては近来躍り流行のよし、実なるや」と尋ねしに、「然なり〳〵。其躍りみすべし」とて、主のにはかに躍り出ぬるに、妻子は三味・太鼓にて囃し立ぬ。折節近所の人々三人来り合せしが、これも共々に躍りぬるに、近隣これをきゝ付て追々に出来り、直に三十人斗に成て大躍りになりぬるにぞ、態々掛取に行しも、其事云出る事をも得せでかへりしと云。此躍十月の始めより流行出で、十二月に至りてます〳〵盛なり。豪家〳〵へ仕掛て躍りぬるにぞ、大なる樽に酒をつめ肴などを出せるにぞ、躍る者共の往来するさまをみるに、大なる長持五つも六七も衣しようを入れて持歩行に、もらひし樽肴など持行さま、さながら嫁入の如しと云。人気の浮れ立ぬる、可笑き物にぞ有ぬ。折々は大坂へも来りて躍れると云。年貢など其儘にて少も頓着せざる事なれば、地頭の迷惑となるべし。誠にあやしき年にぞ有りぬ。

（後略）

註

紅花 菊科の植物で、その花冠をとって染料をつくる。江戸時代、商品作物として重要なものであった。

右の如く大地震あり 引用文より前に「当年は御蔭参より引続、京都地震、諸国風水の変有しかども、少しも稲作のかまひには ならざりしと云。」とある。おかげ参りが大流行した文政十三年（一八三〇）の、七月二日（旧暦）京都でおこった直下型地震で京都市街に大きな被害をもたらした。

躍りの手 踊りのふり、踊り方。

願人坊主 江戸時代、大道で雑芸などを行う僧形の乞食。人家の門に立ち軽口・阿呆陀羅経・浄瑠璃などなどを唱え、祈祷や代参（依頼をうけて代わって社寺詣りをすること）なども行ったという。

願人躍り 右の願人坊主の踊り。

すりがね 擦鉦。金属打楽器。

住吉躍り 大坂 住吉大社の御田植神事にちなんだ踊りで、願人坊主によりひろめられた。かっぽれ・万作踊りなどに影響をあたえた。

大和内里といへるは、八幡より二里斗南 八幡は現在の京都府八幡市の石清水八幡宮門前一帯。大和内里は、おそらく山城内里の誤りで、現在の八幡市内里あたりか。内里は八幡一帯からみて南ではなく南東方向。

予 この著作の作者は美作国勝山藩出身で大坂斎藤町に住む無名の町医師。斎藤町は、現在の大阪市西区江戸堀一丁目北側にあたる。

匁 重量の単位。江戸時代中期以降における一匁は、およそ3・75グラム。これを銀貨の通貨単位としてもちいた。

申の刻 午後四時。

酉の刻 午後六時、

地頭 江戸期における「地頭」とは、旗本や御家人といった概ね一万石未満の小領主。

靭 現在の大阪市西区靭本町あたり。

ほしか 脂をしぼった鰯や鰊を乾燥させた肥料。おもに紅花・綿花などの畑作物に使われた。江戸時代以降このような販売肥料（金肥）が流通するようなった。

代物 代金。

掛取 先に渡した商品の代金をあとで取りたてること。

此躍十月の始めより流行… 「おかげ踊り」は文政十三年（一八三〇）の十月の始めから翌天保二年の四月末頃まで、摂津・河内・大和・伊勢などで大流行した。

豪家〳〵へ仕掛て… 武家・公家など家柄のよい有力な家をまわり酒肴などを強要しながら踊る。

折々は大坂へも来りて躍れる 著者は頭注をあげて以下のようなことを記している。十二月上旬に大坂の天満のえびす神社内にて五十人が踊り、今橋筋せんだんの木筋にて三十人が踊ったことをうけて、町奉行所はおかげ踊り集団が大坂の街中に入ることを禁じた。十二月中旬に河内から約二百人の踊り集団がやってきたが京橋で追い返した。

安丸良夫校注 一九七〇「浮世の有さま 二」御蔭耳目第一（日本思想大系58『民衆運動の思想』所収）より引用。ただし註については、原田伴彦・朝倉治彦編 一九七〇『日本庶民生活史料集成』第11巻（三一書房）所収「浮世の有さま」の編者序文（解説）や注を参考に追加・改変を施した。

平成30年度（2018年度）
京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程入学試験問題
日本音楽研究専攻　小論文

下記の１、２の設問に答えよ（**日本語で解答してください。また、同じ内容を英語で解答してもかまいません。語数は自由です。**）。

１、「日本の伝統音楽」における女性の役割について、自由に論じてください。過去や現在についてまとめるだけでなく、未来の展望についても意見を述べてください。

2.　下の語群中から、自分が研究をすすめたいテーマとかかわりそうな言葉をいくつか選び出せ。言葉の意味を自分なりに定義した上で、自分の研究テーマとのかかわりを述べよ。

演劇、物語、言語、宗教、思想、秘伝、グローバル化、経済活動、マネージメント、社会貢献、美的評価、性差別、コスモロジー、近代化、アーカイブ、著作権、観客、アイデンティティ、商業活動、楽譜、無形遺産、学校教育、口頭伝承、慣習、稽古、精神性、身体